

『内容のある日独交流を』

全国日独協会連合会設立25周年記念
式典に出席して

横浜日独協会会長 早瀬 勇

(1) リラの花咲く爽やかなサッポロ

例年は5月の札幌をいろどるリラの花が、全国日独協会の札幌開催を待っていたかのように、淡紫の満開の姿で我々を迎えてくれました。

関東の蒸し暑さと対照的にカラッとした札幌の空気はまことに気分がよく、生まれ故郷の豊原(サハリン)や留学先のゲッティンゲン(ドイツ中部)の爽やかさを思い出させてくれました。全国から参加の皆様も、きっと心身ともにすっきりして25周年の行事に臨まれたことでしょう。

(2) 前夜の懇親会で感じたこと

木村敬三会長代行(元東独大使・元ドイツ大使)は、全国日独協会連合会(ハノーファー)でのヴルフ前大統領の挨拶を引用して、(日独協会と日独協会が)日独の架け橋を構築するだけでなく、ドイツと日本は欧州とアジアの架け橋を造るべきであり、その為には教育程度が高く思考能力のある両国民のイノベーションでの協力が不可欠である旨のお話をされました。わが意を得た感じです。

シュタンツェル駐日ドイツ大使はそのご祝辞で、30年前には僅かしかなかった日独協会が、2009年の大使着任時には58になっており、更に二つの日独協会設立に直接かかわったことを回想されましたが、その一つとして設立3周年を迎えた我が横浜日独協会の名が挙げられたときは、誇らしさと感謝の気持ちがこみ上げてきました。

懇親会では、“細腕”で北海道政を健気にリードしている”大学の可愛い後輩(注:高橋はるみ知事)”を直接激励することが出来ました。これも札幌の楽しい思い出です。

(3) 記念式典でのお話

木村敬三元ドイツ大使: ホスト役の北海道日独協会鈴木重統会長の開会宣言の後、主催者の木村連合会会長代行が1988年帝国ホテルでの設立決定から今日まで25年間に内外で起こった諸々の歴史的な事件を列挙し、全国日独協会連合会の歩みと存在意義に言及されました。我々地方の日独協会も一緒に日独の草の根外交を担っているのだという責任を改めて重く感じました。

この25年間はまさに変革の時代でしたが、1970年代ドイツで為替・資金業務に携わっていた私にとりましては、EU(欧州連合)とユーロ(欧州共通通貨)の誕生が最大の変化の一つに思われます。特に、東西統一を果たしたドイツのEUにおける役割や影響力がこの四分の一世紀の間に様変わりしたことです。ドイツ人と並ぶ思考力と技術力を持つ日

本人も、アジアの安定と発展に尽くし、ヴルフ前大統領が期待するように、ドイツと手を携えてアジアと欧州との協調に大きく貢献しなくてはならないと痛感しました。

シュタンツェル駐日ドイツ大使: 同大使は昨夜の挨拶を補う形で、日独の「心の架け橋」を架けることは勿論大切だが、長期的な視野に立った「内容のある協力」、例えば温暖化対策やエネルギーシフトや文化交流などが大切であると語られ、我々に大きな示唆を与えて下さいました。一会員として全く同感です。

2012年、「環境先進国ドイツに学ぼう」というテレビ神奈川の特別番組で、当横浜日独協会が企画・現地取材・座談会出席で全面協力しました。その際ドイツ各地域・各機関で取材班が啓発された再生可能エネルギー(バイオマス等)や節電努力(パッシブハウス等)での知見や技術の交換は、いま日本の各地域・各層で求められる喫緊の「内容のある交流」だと思います。

(4) 小塩 節先生による記念講演は感動的でした
「若き日のゲーテとワイマル」と題したゲーテ研究の最高峰小塩先生のお話は、学殖とユーモアが一杯詰まった名講義でした。名行政官としての実績やフォン・シュタイン夫人に宛てた1772通の恋文等のエピソードなどが、蚕が糸を紡ぐように次々と語られ、31歳のときの詩「旅人の夜の歌」の名解釈に至りました。「キッケルハーンの山頂で」うたった旅人の歌は、明治時代の日本の教科書に載った訳詩「さすらい人の夜」の老人の歌ではなく、貧しいヴァイマルの領民にパンを与えなくてはならない31歳の行政官ゲーテの溢れるエネルギーを抑えての「待て しばし(Warte nur, balde) 汝もまた 憩わん(Ruest du auch)」だった、と先生はおっしゃいました。また、数十年後、この詩を読み返したゲーテには「憩」が「死」と重なって思えたのかも知れない、と付言されました。

質疑応答では、木村元大使の内容をよく理解したコメントや、小塩先生とシュタンツェル大使とのユーモアを交えたやり取りもあって、記念すべき講演会は和やかに終了しました。

(5) 北海道の皆様方に感謝

二日間にわたって札幌京王プラザホテルで催された25周年記念事業を、周到に計画され、円滑に運営された主管者の北海道日独協会と主催者の公益財団法人日独協会の皆様、歓待して下さいましたサッポロビールほか関係者の皆様にこの紙面を借りて厚く御礼申し上げます。(了)

全国日独協会連合会創立25周年記念行事(札幌、2013年6月7~8日)

この記事は、北海道日独協会会報 Nr. 30
2013年12月発行の特集1に印象記として掲載されたものです。